

# 人間性の涵養

(拾遺二)

倉 橋 惣 三

イギリスに人道協会というのがある。人道というから人間が人間への道をいうことかと思うと、実は動物愛護協会のことである。動物を愛する心は、人間の心を以て動物に対することである。人が人に対して、己れの苦痛を以て他の苦痛を察し、己れの快を以て、他の快をはかるのを、動物世界にまで移すのである。移すというよりも、ひろげるといふか、及ぼすといふか。及ぼすというよりも、そのひろい豊かな感情が、人間にだけではなく、余りて動物にまで及ぶ意であり、同法ということはずべてそうであらう。

東洋でいう、惻隱のこゝると同じである。動物愛護運動が、単に動物の幸福を増すのみでなく、人間性を向上するとして奨励されるのも、この解釈によるものである。幼児に対する人間性の涵養の途として、重んぜられる所以も、そこにある。

動物を愛するにも、愛玩に止まることがあり、それは子供に対する場合にも同じことがあるが、人間性の発露とは、似て非なること甚しいことである。小動物を幼児に与える場合、細心の注意を要することであらう。その愛憐と愛玩の別は、わたくし達、おとなのすることによるのであろうか。動物愛護を以てヒューマニティーの教育に資する英国の例は、賢明といわなくてはならない。純愛よりも、小動物の風流的愛玩性に豊む我国の風習において、特にこの点を注意したい。

愛玩でなく、真に先方を愛することは、相手をしてその処を得せしめることである。相手の志を遂げしめることである。というところが大きくなるが、その気もちを察して、妨げざることである。近頃デモクラチックの語が行われてこと細かに説かれもするが、要は、人の心もちへの察しを通すことであらう。抑圧的干渉をしないのみ

ならず、うるさい、おせつかいに人を邪魔しないことである。

デモクラチックといえば、新しいが、物分りのいゝ所謂苦勞人は、人に対して、自分の領域をわきまえる。うるさい口出しをしないばかりでなく、余計なおせつかいをやかない。ひつこくなく、さっぱりと、その相手と交る。ひつこくない江戸氣質の老人などによく見るところであるが、干渉しないというだけで冷淡なのは、支那の仙人や、雅客に似て、あき足らない淡さがあつたりする。

わたしは、或時、電車の中で、一人の職人風の若い衆が、混み合いの乗客をかき分けて、赤ン坊をおぶっているおかみさんの傍へ近づき、ぬけかゝつて居るかんざしを一寸差して、御免なせいといつて電車を降りていつたのを見たことがある。その職人は、多分さつきから、そのかんざしの落ちかゝつているのが氣になつてならなかつたのであろう。そうして、がまん出来なくなつて、声だけかけて、その親切をごめんなせえと云いながして、そのまま降りていつたのであろう。

デモクラシーは、人のことに出しやばらなかつて、決して不親切ではない。たゞ、自分の好意を、人に押し

つけない。その職人の「御めんなせい」は、親切をつつけて、親切を賞らないデモクラシーである。——民主主義の行いは、その場合いかであるが、その心の根は一つである。他人のことに氣を配つて、しかもその人格を冒さないことである。親切をしようとする、ひつこくなり勝ちだ。愛と愛玩との差もそこにある。この訓練のないところに真のデモクラシーはあらわれない。人権論者に案外デモクラシーがなくて、英國のレーバー諸君の日常行動にその真髓があつたりする所似である。

デモクラシーは要するに、相互の人間愛である。人間性のない社会に、デモクラシーはない。

新しい教育は、デモクラチックな人間をつくることである。という、むづかしそうだ。たり、倫理道德の訓練であつたりするようであるが、つまりは、人情の養いであり、人情は言葉や、教訓では養えない。人間と人間との自然の触れあいのうちのみ養われる。それは、幼児期の人間的やわらかさにおいてのみ、それがよく行われる。道德のおきてにしたりすると、却つてその自然を失うであらう。